６. 茶　　樹

（1）干害(乾燥害)及び高温害

夏から秋は、翌年の一番茶生産の良否を決める重要な時期である。この時期に３５℃を超える高温や乾燥が続くと、葉焼けや枝枯れ起こし、光合成能力も減退して生育が抑制され、正常な生育周期が攪乱される。

収量の減収はその年だけにとどまらず、翌年の一番茶収量も著しく減収する。また、高温・干ばつが毎年続くとその悪影響は累積すると考えられる。

（2）対策

１）敷き草、マルチング

①土壌水分の競合を出来るだけ防ぐため除草を徹底する

②完全に裸地状態となると水分蒸散が激しくなるので、除草剤による除草は控え、草刈り機による除草を行う。

③敷き草や敷きワラ等による株もとへのマルチングを行う。その際、かん水後にマルチングを行うと効果が高い。

２）灌水

①水源が豊富にない場合は、根が多く分布している箇所へのスポットかん水を実施する。なお、かん水の時間帯は、気温の高い日中は出来るだけ避け、夕方や夜間に行うことが望ましい。

②特に、幼木は根量自体が少ないので優先的なかん水を行うこと。

③灌水は２日に1回、朝または夕方1時間あたり２ｔ/10ａは行うこと。

（3）栽培管理上の留意点

①肥料施用後、降雨がない場合は灌水を行う。

②８月下旬の深耕は、肥料施用後浅めに行う。